

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	あうりんこ吉野		
○保護者評価実施期間	令和 7年 12月 20日		～ 令和 8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	令和 7年 12月 20日		～ 令和 8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 7日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児をより多角的な視点で評価、支援することができる。	・言語聴覚士、作業療法士、保育士、児童指導員、看護師の配置があり、それぞれが専門的なアセスメントや、視点をもって評価、支援を行っている。また担当制ではなく、職員全員で利用児に関わるため、情報共有の機会を多く設けている。 ・児童発達支援、保育所等訪問支援も実施する多機能型事業所であるため、学校等の地域での様子や未就学時の情報などを踏まえて支援を検討している。	・職員研修や事業所内会議、情報共有の場の充実を図る。 ・外部研修の機会を積極的に活用する。 ・家庭での様子をより細かく把握できる仕組み、アセスメント方法を検討していく。
2	保護者へ適切な助言を行えている。	・定期的なアセスメントを介して、情報共有を行うため利用児がどれだけ成長したか、より客観的な視点で判断することができる。また現在の支援効果の評価もできるため、家庭での利用児との関わり方についても的確な助言を行いやすい。	・保護者がアセスメントや支援の内容理解をより図れるよう共有機会、手段の拡充を図る。 ・日常生活の困り感を拾いやすいようなアセスメント方法、面談手技、環境設定を検討していく。
3	利用児が楽しく通所できており、保護者からの満足度も高い。	・事前の支援会議の機会を通して、個々に沿った活動設定や、目標設定を行うことができています。 ・活動や玩具、器具の種類が多く、選択肢が充実している。 ・利用児に対しての支援、声掛けの手技を共有しており、肯定的に活動へ取り組むことができています。	・利用児、個々に対して客観的なアセスメントツール以外の情報も含めて、共有していく機会をより充実させる。 ・支援者の手技、技術向上を狙った研修、情報共有の機会をより充実させる。 ・活動や玩具、器具の定期的な入れ替えや新しい取り組みを検討する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	通常の支援に関わること以外の情報共有の機会が少ない。	・重要事項説明を行う機会が基本的に契約時のみになってしまう。	・自己評価結果を活用し、保護者の認知度を確認した上で公表結果が広く伝わるよう直接的な声掛けを増やしていく。 ・避難訓練などを行った際に、改めて避難経路の確認など、関わってくる重要事項の説明を行う。
2	送迎対応が主で保護者が基本来所されない利用者様と情報共有する機会が少ない。	・保護者の就労状況によっては、サービス提供時間内で来所をすることが難しいことも多く、事業所送迎での利用や祖父母が送迎対応をする場合も多い。	・利用時の様子観察や情報共有の機会が利用児のより効果的な発達支援、家族支援等に繋がることを共有していく。 ・今年度は保護者参加型のイベント等を開催し、保護者が事業所に来所しやすい環境を作ることができた。継続して実施していきたい。